秋高 同窓会だより

題字は辻兵吉会長

発行者　秋田県立秋田高等学校同窓会
秋田市手形中台1番地
TEL 018（832）9553
印刷　有限会社　三浦印刷

新春随想　伊藤碩彦
ポラリス　湊昭策
恩師訪問　三船新次先生
俳句　豊島恵美
武田武志
通常総会
記念講演要旨
つどい
部活動の記録

近藤周平監督

3年ぶり6回目の「花園」で健闘したラグビー部

写真：秋田魁新報社提供

〈同窓会だよりは再生紙を使用しております〉

新春随想

秋田県の将来を考える

伊藤　碩彦
㈱伊徳 代表取締役社長・昭和35年卒

あけましておめでとうございます。

バブル経済がはじけて十年くらいは日本経済も漂流状態でしたが、小泉改革を経てようやく方向が見えてきたようです。しかしそこから秋田県の将来を考えると、あまり正月気分には浸っておれません。どうやらこのままでいくと本県は人口減少、所得水準の低さ、働く場の少なさなどで全国でも最も貧しい地域になりそうです。

道路や下水道などのインフラはもちろん、福祉、医療、教育などを充実するにはお金が必要です。今までは国や県などが面倒を見てくれましたが膨れ上がる借金でもはや限界です。しかも地方分権とやらで、結局自分たちで稼がないと、これからはやっていけません。行政の力よりも民間の力が重要になるというのに、本県は全国でも民間の力が最も弱い県の一つです。だから大変なのです。

二年ほど前、ある農協の青年部のリーダーと話していて「秋田県の農業は米作りだけでなく、果樹や野菜などもっと付加価値の高い作物を作ったらどうか。そうすれば所得も増えるし後継者や就業人口も増えるのではないか」と提案したことがあります。そしたら返ってきた答えは唖然とするものでした。「ほとんどの農家はそんな面倒くさいことはしたくない。どこかに勤めて片手間に米を作っているのが楽で一番いいと考えているようだ」と言うのです。

確かに今、米作りは機械化が進んで片手間で出来るようになりましたが、このままでは農業は廃れてしまいます。近隣の他県では米以外の農作物をどんどん作っているというのに、このやる気のなさはどうしたことかとがっかりさせられます。

秋田は米作りに適した土地柄だということもあってか、飢饉の時に餓死者を多数出した津軽や南部と違ってハングリー精神に乏しいと言われます。田植えをするにも田んぼに水を入れる順番があって、一人だけ勝手にやるわけにもいかず、その結果自分で考えるよりも長老や先輩のやる通りにやれば間違いない、という習性が今に続いているのかもしれません。

似たようなことは私の経営する会社（小売業）でも感じることがあります。

取引先や外部のコンサルタントは、「従業員の多くは真面目でよく頑張る」と一応褒めてくれますが、言われたことはよくやるが自分から工夫して改善したり、新しい提案をするのは苦手のようだ、とも言われます。企業は昨日と同じことをやっているだけでは競争に負けてしまいます。ですから社員教育ではチャレンジ精神の大切さを一生懸命叩き込んでいる、というのが実状です。

日本全体が大きく変わろうとしている今、県民の意識は変わらざるを得ないし、むしろ積極的に変えるチャンスでもあります。現状を変えよう、夢に向かって挑戦しようとの気概を持つ人が増えれば、自分で事業を興したり、企業の中で幹部や専門職として活躍する人達も増え、その結果としていずれは人口や所得の増加につながるのではないでしょうか。

夢の実現をめざす上で、私のつたない会社経営の体験から一つアドバイスをさせて頂くとすれば、「井の中の蛙」であってはならないということです。

小売業界はご承知の通り大型店の進出で大変厳しい競争下にあります。私は昭和四十二年以来ほとんど数年毎にアメリカの流通業界を視察し、日本もいずれはアメリカのようになると考えてそのための準備をしてきました。決して充分な対応が出来たとは思いませんが、もし何もしなかったら今ごろ会社は無くなっていたと思います。

本県の人口と所得水準が上向くことを祈念して結びと致します。

天上天下

今年は、『沈黙の春』の著者レイチェル・カーソンの生誕百周年にあたる。カーソンは一九〇七年に、鉄鋼都市として有名なピッツバーグの近郊に生まれ、ジョンズ・ホプキンス大学大学院を修了した後、米国務省漁業局に入り、生物専門官として各地を調査した。▼五二年に退職して文筆活動に専念。五八年から『沈黙の春』の執筆に取り掛かる。ガンと闘いながら筆を進めて、六二年には出版にこぎ着けたが、そのわずか二年後に、まだ五十六歳の若さでこの世を去った。▼自然破壊の問題を正面から取り上げた名著『沈黙の春』は、刊行と同時に大きな反響を呼び起こした。当時、米政府は「化学薬品による有害生物絶滅計画」を遂行中であったが、大統領府が調査に乗り出し、DDT禁止など政策を根本から転換するきっかけとなった。その後も世界各国の環境政策や保護運動に多大の影響を与えつつ現在に至っていることは多言を要しない。▼「人類は今、分かれ道に立っている」という四十年前のカーソン女史の指摘は、昨今ますますその輝きを増しつつあると言える。

百二十人が出席して通常総会

平成十八年度の通常総会は、昨年八月二十日（日）の午後二時から、秋田市のシャインプラザ平安閣秋田において、県内外から約百二十人の参加者を得て開催された。

菅原実氏（昭和51年卒）の司会で始まった総会は、まず校歌を五番まで斉唱し、その後、物故会員に全員で黙祷を捧げた。

次いで総会は辻兵吉会長の挨拶に移り、そのなかで会長は、総会運営の裏方的業務を担当する当番年次諸氏の労をまず労い、講演講師の林佐絵子氏を引き合いに出しながら、世界にはばたく母校卒業生の活躍ぶりに触れた。次に会長は、同窓会の財政問題に言及し、会費制となっている現行制度のもとで、会費納入率がやや低下傾向にある事実を指摘。母校を積極的にバックアップしていくという観点に、創立百四十周年を見据えた視点も加味して、会員諸氏のなお一層の支援と協力を重ねて訴えた。

次いで登壇した柴田義弘新校長は、現在の生徒数は九百五十名、そのうちの四割超が女子生徒なので、男子は六百名に満たない現況を紹介し、そうしたなかで文武両道に取り組んでいる毎日である旨を披露。具体的に卓球、山岳、剣道等のインターハイ出場種目と合わせ、花園を目指すラグビー部の活躍に触れた。また、県予選で敗退した硬式野球部については、再出発を期して活動に取り組んでいる姿を紹介した。

他方、進学に関して柴田校長は、「学校案内」に基づきながら詳細な数字を紹介。卒業生の約半分が国公立大学に合格し、残りの半分が私立大学に合格したことを紹介して、翌年に向けて再挑戦中の生徒は全体の四分の一である事実を披露した。また校長は、〇七年問題とも関連させながら、大学の入学定員と入学希望者数がさらに接近する傾向を踏まえ、第一希望の大学に一人でも多くの生徒を合格させることが学校としてはこれまで以上に重要な課題になると指摘した。

校長はまた、テーマを「奏」とした学校祭での生徒達の活躍ぶりに触れるとともに、同窓会のパワーも生徒達に伝えていきたいと述べて、同窓会への一層の支援を要請した。

この後、恒例によって辻会長が議長席に着き、次第に従って各種の報告に移る。

最初は、会務報告で、仙波昭彦事務局長が資料に基づきながら手短に会務一般の報告をした。続く常置委員会報告では、企画・佐々木博良、財政・速水洋子、名簿・工藤雄一、広報・柴山芳隆の各委員長が所管事項について簡潔に報告。会場から出された幾つかの要望事項については、担当部門で適宜検討していくこととなった。

総会は次いで議事に入り、まず仙波事務局長が平成十七年度決算（一般会計、基金会計・名簿会計・退職金積立会計）について説明。進藤利文監事から監査報告を受けた後、満場一致で十七年度決算を承認した。

さらに総会は、平成十八年度の事業計画ならびに収支予算案について事務局長から説明を受け、それらに関して慎重に審議した結果、原案通り承認した。

次いで総会には事務局から「同窓会における個人情報取扱規程」及び「本会における個人情報の取扱について」の両案が出され、いずれも提案通り承認された。

会は最後に、校長の異動に伴う役員の一部変更案を承認して会を閉じた。

総会終了後、同じ会場で、林左絵子氏による記念講演（**要旨は四面**）が一時間余りに渡って行われ、その後は、会場を別室に移してなごやかに懇親会が行われた。

平成18年度 一般会計予算

《収入の部》　（平成18年4月1日　単位：円）

科目	17年度予算額	18年度予算額	比較 増	比較 減	摘要
1.入会金	2,275,200	2,304,000	23,800		新入会員320人×7,200円
2.会費	12,000,000	12,000,000			延べ6,000人×2,000円
3.繰入金	0	0			基金会計から
4.協賛広告費	400,000	400,000			40コマ
5.基金運用収入	2,975	3,023	48		基金預金利息
6.寄付金	10,000	10,000			
7.会議収入	1,055,000	1,000,000		55,000	総会・理事会・懇親会費
8.雑収入	10,000	10,000			預金利息など
9.繰越金	3,109,408	3,557,525	448,117		前年度より繰越
合計	18,862,583	19,284,548	421,965		

《支出の部》

科目	17年度予算額	18年度予算額	比較 増	比較 減	摘要
1.事業費	8,230,000	8,390,000	160,000		
だより発行費	5,900,000	5,900,000			年2回発行費・印刷代、送料・封筒・宛名ラベルなど
母校協力費	800,000	1,000,000	200,000		運動部助成費など
新入会員歓迎費	600,000	600,000			記念品代・栞・講師謝礼・案内状など
年次強化費	220,000	220,000			若年次同期会通信費・会議費補助など
知道会関係費	60,000	0		60,000	
事務局整備費	250,000	250,000			事務局備品・環境整備など
資料館整備費	400,000	420,000	20,000		秋高祭展示・写真・額・建物維持修理など
2.会議費	3,820,000	4,020,000	200,000		
総会費	1,000,000	1,000,000			総会資料・講演謝礼・懇親会補助・当番年次打合会議
役員会費	900,000	900,000			役員会・理事会
委員会費	420,000	420,000			常置委員会・常置合同委員会・HP委員会、延12回
支部関係費	1,500,000	1,700,000	200,000		支部総会出席旅費・寸志など
3.事務費	5,270,000	5,290,000	20,000		
給料・手当	2,780,000	2,780,000			事務局職員2名分・アルバイト賃金
消耗品費	230,000	230,000			事務文具・各用紙代・ダスキン交換・複写機使用料など
印刷費	520,000	320,000		200,000	封筒・払込取扱票・私製葉書など
通信費	420,000	440,000	20,000		切手・官製葉書・電話ファックス料金・インターネット回線など
手数料及び広告料	560,000	760,000	200,000		会費他払込手数料・広告料
機器運営費	760,000	760,000			機器整備修理・バージョンアップ・HP管理など
4.基金	1,000,000	1,000,000			
同窓会基金	1,000,000	1,000,000			
5.雑費	300,000	300,000			
慶弔費	200,000	200,000			祝電・弔電・祝金・慰労金など
雑費	100,000	100,000			タクシー代など
6.退職金積立	180,000	180,000			
退職金積立	180,000	180,000			事務局職員2名分
7.予備費	62,583	104,548	41,965		
予備費	62,583	104,548	41,965		
合計	18,862,583	19,284,548	421,965		

講演要旨

宇宙の彼方に地球の生いたちを探る

国立天文台
ハワイ観測所助教授
林　左絵子　氏

いま、私たちの生きている時間というのは、惑星の研究については、コペルニクスが生きていた千六百年代以来の大きな転機なのではないかと思う。

一つは、太陽系内部の天体についての理解が深まってきた。もう一つは、太陽系以外にも数多くの惑星があることが分かってきたことである。

太陽系惑星は、これまで「水金地火木土天海冥」の九個とされていたが、小惑星に分類されていた「セレス（ケレス）」、冥王星の衛星扱いだった「カロン（シャロン）」、番号しかまだ付いていない「二〇〇三UB三一三」を加えた十二個、もしくはそれ以上に対しての資格試験が、現在行われている。

惑星として認定されるためには、「他の天体の影響を受けても、自分自身の重力で壊れない形を持っている」「太陽の周囲を自分自身の軌道を持って回っている」の二つの条件を満たさなければいけない。しかし、木星の大きな四つの衛星や土星のタイタン（火星より大きい）など、太陽系の惑星のいくつかには、大きくて重い衛星が存在するが、この二つの敷居を乗り越えることができないため、惑星とは認定されない。

〔略歴〕昭和52年秋田高校卒　東京大学理学部　同大学院修了　理学博士（天文学）国立天文台ハワイ観測所助教授　国立大学法人総合研究大学院大学数物系研究科助教授　イギリス、カナダ、オランダ連合天文台研究員　著書に「すばる望遠鏡と自然は面白い」「宇宙探険すばる望遠鏡」

冥王星と、その衛星とされてきた「カロン」については、大きさ、重さが接近しており、互いの重心で引き合って、太陽の周囲を回っているので、この二つは「主」と「従」の関係ではなく、双子の星の形だと分かってきた。「カロン」は、近く一人前の惑星として認可されるもようである。

現在、惑星候補として名前が上がっているものに「セドナ」がある。太陽への軌道が、冥王星に近づいたり、はるかに遠く離れたりの楕円形を描き、太陽系と隣の星との間の境界に近い天体領域にある。

次に、太陽系以外の「系外惑星」。二百二個の候補が分かってきている。星の数で百七十三個（複数の惑星を持っているものがある）。このうち百六十三個は運動を調べることで、四つは明るさの変化から判明。最近は直接見たものも出てきている。あとは、特殊なもので、どうしてできたか分かっていない、パルサーの周囲を回る惑星もある。

地上からの望遠鏡で観測すると、必ず空気の揺らぎを受ける。これを測って直してやる「補償光学」を用いた装置を用いて、すばる望遠鏡では、系外惑星とその元になる原始惑星円盤の想像図を作った。

それによると、材料をまとめて一人前の星になるまで約一億年かかる。その過程で、原始的惑星円盤、惑星系もできてくることが分かった。宇宙に関する研究は奥が深い。

平成18年度 芸術鑑賞教室

今年度の芸術鑑賞教室は、10月18日（水）に秋田県民会館で実施された。また、希望する保護者や関係の方々にも鑑賞していただいた。

例年は音楽鑑賞と演劇公演であったが、今年は新企画として、「日本の古典芸能より―狂言と落語―」と題しての公演となった。

狂言は大蔵流・善竹家、滋芸狂言会による『柿山伏』。法力や権力を持つ者として庶民からおそれられている山伏が、一方でそのとんまな行いから笑いの対象となる妙を演じ、好評であった。その後『狂言体験教室』として、狂言の所作や決まり事と楽しみ方についての説明と、生徒希望者による狂言体験も行われた。

次に『落語教室』として、上方落語界の若手としてマスコミでも注目を浴びている、林家染弥氏による現代感覚を生かしての軽妙な落語一題と、江戸落語を代表して、柳家禽太夫師匠による長屋物一題の口演があった。70cm四方の座布団の上、扇子と手拭いで演じられる古典芸能の東西の世界を十分楽しんだ。

今回の芸術鑑賞教室は、文化的に触れることの少ない古典芸能を楽しむ機会を得られ、意義深かった。

ご家庭に配達いたします！
武藤乳業㈱
取締役社長
武藤良英
（昭和32年卒）
秋田市東通四丁目1－67
TEL 018－832－3257
FAX 018－833－6910

杉山医院
杉山好廣
（昭和32年卒）
秋田市土崎港中央4丁目8－10
TEL 018－845－0678
FAX 018－845－6824

株式会社
齋彌酒造店
代表取締役会長
齋藤銑四郎
（昭和32年卒）
〒015-0011
秋田県由利本荘市石脇字石脇53

秋田大学教育文化学部同窓会
旭水会　事務局長
佐々木信吾
（昭和32年卒）
〒010-8502 秋田市手形学園町1の1
TEL/FAX 018-831-2783
自宅 〒010-0811 秋田市泉釜の町7-15
TEL/FAX 018-868-4078

恩師訪問

三船新次先生

今回で七回目を迎えた本企画にご登場願ったのは、三船新次先生。来年の国体開催を前にお忙しい中を十一月七日、羽城館まで足をお運びいただき、石塚政吾広報委員がお話をうかがった。

先生ご無沙汰致しております。大変な天気となってしまいましたが、本日はわざわざお越し頂きありがとうございます。

初めに、先生は本校のご出身でもいらっしゃいますので、高校生時代のことをお伺いしたいと思います。

私が高校生活を送った時はまだ校舎は秋田駅前にありました。ちょうど秋田南高校から秋田高校になった第一期生でした。私が陸上競技を始めたのは中学生からですが、高校の時の練習は今の秋田大学の陸上競技場でした。当時はまだ「県営グラウンド」と言っていたと思います。練習を終えると秋田駅から土崎へ帰る列車通学でした。高校時代の記録は、酒田インターハイに出場し、八百メートルで三位でした。

秋田高校に初めて赴任されたのはいつですか。

昭和三十五年に講師として赴任したのが最初です。翌年がちょうど秋田国体でしたが、湯沢北校で任用となって二年、三十八年に再び秋田高校に勤務することになりました。敷地内にあった宿舎に入ったのですが、冬は水道管が凍って本当に大変でした。代わりの宿直もずいぶんしました。私は養子に入ったので、旧姓は辻です。講師の時は辻で再度赴任した時は三船になっていたのですが、なかなかわかってもらえなかったようです。

当時印象に残っている出来事が何かあったら教えて下さい。

確か国体の後だったと思いますが、天皇陛下が行幸するということで、ウグイス坂が舗装されたと記憶しています。実際には天皇陛下はいらっしゃらなかったと思いますが。

その後、本校には昭和五十四年までの十六年間お勤めになったと聞いていますがその中でも記憶に残っていることと言ったら何でしょうか。

ええ、五九インターの少し前まで、高体連の事務局が本校にありましたから、その関係で陸上競技以外の競技の先生方や他校の先生方と接する機会を得たことは、私にとっても大変よかった。大きな財産だったと思っています。

先生と言えば、私などはやはり「クロカン」を思い出すのですが。

初めはマラソン大会があったのです。添川から泉の郵便局の脇を通って秋高へというコースでしたが、たしか他所でマラソン大会中に事故が起きたことがきっかけで止めることになり、代わりにというか、運動会のクロスカントリーという形での実施になったと記憶しています。秋大の裏にある植物園から手形水道山を経て秋田高校へという大体六キロぐらいのコースでした。

秋田高校を出られてからの様子をお聞かせ下さい。

最後の五年は、八橋陸上競技場に勤務しました。それまで秋田中央高校におりましたが、他の高校へ行って、自分が指導してきた生徒らをライバルとして他校で指導するという気持ちにどうしてもなれなかったので、現場を離れることにしたのです。

来年の国体へ向けてもお忙しいと聞いておりますが。

そうですね。今、本校の南都先生を強化部長に、様々な強化を積極的に行っているところです。

今でも先生は走っておられるのでしょうか。

うん、犬の散歩程度はするけど、昔のようには走っていないね。

ところで、先生は在職中、教育に携わる者として心がけてきたことは何でしょうか。

「一緒に走る」ということが、私の教育の基本にあります。俺と一緒に走ればインターハイに行けるとか、何でも一緒にすることによってお互いが高め合えるというのが、教育の根本だと思うのです。「学ぶ」の基本は「まねる」にある。一緒に走る姿を見たり見せたりする、その中からまねるべきものをまねる。そうやって人は成長していくのだと思っています。

本校陸上競技部の女子が先日行われた駅伝大会で堂々五位に入賞し、東北大会出場を決めましたが。

いや、本当によく頑張ったと思います。長距離は何と言っても練習量がものを言いますから、秋田高校のような勉強もしなきゃならん学校では難しい。そうした中で本当によくやったという感じです。一年生主体の若いチームですからこれからまた期待したいですね。

最後に、最近の本校生についてどのように感じておられるでしょうか。

時々、家も近いので運動会などを見に来るのですが、女子が多くなったという印象を強く持ちます。男子が少なくなったということですが、その中で、ラグビー部や野球部での成果は、秋高生よくやっているなという印象を強く受けます。これからは男子・女子を問わず活躍してくれることを期待しております。

つどい

花園への集結誓う
近畿支部総会

十一月十二日大阪梅田「弥生会館」で開催。約五十名が参加。

来賓の柴田校長先生からラグビー部の全国大会出場のお話があり、近畿支部の念願であった花園での応援が現実のものとなる喜びに一同沸き返った。

次いで「『食』から国の安全を考える」と題された荻原征三郎産経新聞客員論説委員（S34卒）の講演があり、貴重な話に耳を傾けた。

懇親会では辻会長の挨拶の後、泉義一氏（S11卒）の発声で乾杯開宴。今年は「大いに歌う」がテーマで、応援歌、凱歌、数々の部歌、校歌を次々と歌い上げ、盛会のまま会を閉じた。

札幌支部総会

十月十四日、ホテルノースシティ（札幌市中央区）において開催。参加三十二名。

総会の冒頭、一月に急逝された小野義孝さん（S46卒）に黙祷が捧げられた。長年支部幹事長を務められた小野さんは、支部二十五周年記念の際、自らのデザインでオリジナルネクタイを作成。総会参加者の重要なアイテムとなっている。

懇親会も和やかな雰囲気の中、楽しい会となった。

●追分三叉路会●

当日は県立博物館の見学会も実施された。

平成18年10月29日
於　秋田市北部公民館・秋田県立博物館

●宇都宮支部●

平成18年9月4日
於　ホテル丸治

●茨城秋高会●

平成18年11月4日
於　水郷（茨城県土浦市）

大曲支部新役員選出

6月16日の総会において下記の通り新役員が決まった。

会　長	藤田　紀一	S23卒
副会長	有明秀太郎	S29卒
〃	下山　維敏	S30卒
〃	伊藤圭右衛門	S31卒
幹事長	伊藤　元一	S33卒
幹　事	下山彰一郎	S27卒
〃	斎藤　正俊	S30卒
〃	佐々木岩男	S31卒
〃	高橋　絢子	S33卒
〃	一星　邦彦	S40卒
〃	武田　陽	S41卒
〃	山下　栄敏	S41卒
〃	吉方清治郎	S47卒
〃	三浦　俊一	S53卒
顧　問	五十嵐　卓	S16卒
〃	小松　正一	S16卒
〃	三村　一雄	S16卒
〃	富樫公一郎	S19卒
〃	根本　幸蔵	S20卒
参　与	清水　貞夫	S27卒
〃	茂木　晃	S31卒
事務局	山本　美幸	S39卒
〃	森本　光博	S40卒

大渕歯科醫院
大渕義孝
（昭和42年卒）
〒010-0001
秋田市中通4丁目7－35
秋田市民市場2F
TEL（018）835－3711

ホームテック株式会社
FROM HEART FROM TECHNOLOGY Home-Tec
代表取締役社長
進藤重明
（昭和42年卒）
秋田市楢山登町6－15
TEL 018（835）2211
FAX 018（835）5950

LADY'S FASHION Matsuya
株式会社 松屋
代表取締役
新開仁
（昭和42年卒）
秋田市中通二丁目1－22
TEL 018－835－8317

株式会社 鎌田会館
代表取締役社長
鎌田壽
（昭和42年卒）
運営本部
秋田市中通3－2－44－2F
TEL 018－835－2232
FAX 018－831－2727

「卒業五十年のつどい」

昭和31年卒同期会

昭和31年卒の我々にとって今年は、卒業半世紀という節目の年。「卒業五十年の集い」と銘打ち、九月二十五日に二年振りの同期会を開催。

日中は初秋の香り漂う太平山CCで、遠来の工藤健・佐藤鋼一朗両君を迎え有志十四名でゴルフ。G七十五の澤田石銀平君がぶっちぎりの優勝。夜は、大町ビルに同期生六十九名に三年次病欠で三十二年卒になった佐藤祐悦君を加えた七十名が参加。畑澤・山谷両恩師もご臨席賜り大懇親会。札幌から馳せ参じた金澤芳太郎君の乾杯の発声の後は、堅き握手あり、テーブルサーフィンあり、余興に平沢健治・高橋寿夫両君の詩吟ありの気分はティーン・エイジャーで大賑わい。超を超えての盛り上がり。二次会のカラオケでは、マイクを握った誰しもが、とても古希を迎えたとは思えぬ張りと艶のある喉を披露。幹事団が用意した公式行事は此処迄だったが…。

気分若返ってストレスを発散した夜でもあったが、同時に俺らの人生遙々遠くへ来たもんだな！と、つくづく感じた夜でもあった。（松野厚記）

●秋中二〇四会●

平成18年9月1日
於　秋田キャッスルホテル

●「秋高三二会」総会●

平成18年9月15日
於　ホテルメトロポリタン秋田

●昭20(5)年卒傘寿同期会●

平成18年6月6日
於　ホテルメトロポリタン秋田

昭和12年卒・五十期会

米寿の集い

平成十八年五月十七日、ホテルメトロポリタン秋田において我が五十期会を開催した。

卒業以来七十年、米寿を迎えた同期生九名の参加であった。

夫人同伴二名と故伊藤博次氏夫人及び割烹紀文の女将房太郎さんの友情参加を得て華を添えて頂き、大いに盛り上がった。

多くの友と訣れつつある寂しさを託ちながらも、お互いよくぞ永らえしものと、懐旧を語らい、かつもろもろの有り難き惟いが共通するようであった。

我々も還暦・喜寿・傘寿・そして今回の米寿と節目には集まって、友情を温めて来たのであるから、さらに次の節目卒寿まで頑張ろうではないかと、お互いを励まし合いながら、心暖まる新緑の一刻を過ごした。

なお、会の終了後に藤崎生雲君より、当日の感懐の漢詩が寄せられた。この場を借りて披露させて頂く。

寄秋中五十期会ノ米寿華筵ニ

奕々タル英才九老松
青葱タル秀色、自ラ成レル龍ト
大椿、昌運、南山ノ寿
正ニ是レ淋漓、浩蕩ノ胸

（渡邉喜一記）

菊地司法書士事務所
司法書士
菊地喜久雄
（昭和52年卒）
事務所 〒010-0951
秋田市山王六丁目1－1（山王ビル）
TEL㈹018－823－9381
FAX 018－823－3209
E-mail:superman-kikuchi@nifty.com.

やばせ内科クリニック
診療科目／消化器科（胃腸科）・内科
院長 俵谷博信
（昭和52年卒）
〈日本消化器病学会 認定専門医〉
〈日本肝臓学会 認定専門医〉
診療時間
月・火・木・金 午前8:30～12:30 午後2:30～6:00
水曜・土曜 午前8:30～12:30（午後休診）
休診 日曜日・祝日
〒010-0973 秋田市八橋本町五丁目8-31
☎018-895-7733 P有り

株式会社ヤマト
ブックマート（中古CD・DVD・ソフト・書籍）
TEL 862 2036 スーパーランド ヤマト大町（スーパーマーケット）
TEL 823 7451 住宅資材部（木材の小売・卸）
アスクル（通販）
代表取締役社長 茂木一仁（昭和52年卒）
秋田市大町2丁目3-27 秋田ニューシティービル
http://www.a-yamato.com

関東地区会開催

昭和26年卒同期会

六月六日、神田グランドセントラルホテル一階レストラン「カサヴィーノ」において昭和二十六年卒同期会関東地区会が開催された。参加者二十六名、司会は事務局長佐藤二郎君。

黙祷、幹事長山下直樹君の挨拶に続き、秋田からの来賓加藤幹郎君から最近の秋田の話題を盛り込んだ祝辞を頂戴した。

和やかな懇談が進む中、健康に関する話題が多かったように思えた。

（山下直樹記）

第17回 横の会

昭和45年卒同期会

昭和四十五年卒「横の会」も十七回目の開催となり、これまで十年近く続いたお盆ウィーク開催を文化の日に変更してみた。そのせいか昨年わずか二名だった女性参加者が一気に八名に増加。総勢四十名の参加があった。

当日は「ラグビー花園にいくぞ報告」あり「遠路はるばる初参加だぞスピーチ」あり。校歌・応援歌、最後はラグビー部歌まで全員で熱唱。互いの元気な姿を確認し合って集いはおひらきとなった。

（菊地えり子記）

●昭和十九年卒同期会●

平成18年8月24日
於　シャインプラザ平安閣秋田

還暦の祝・四〇会総会

百三十二名参加

昭和三十七年に駅前から手形中台に新築移転した校舎の新入生として入学、昭和四十年に卒業、同期生は早いもので還暦を迎えた。

去る九月二十三日還暦の祝いと総会を秋田ビューホテルにて開催した。恩師四名を来賓としてお招きし、会員百二十八名（県外在はうち四十七名）が集い盛会となった。

還暦の神事終了後の総会では、五十嵐武士君（東大法学部教授）が恒例となった会員による講演を行った。

当日は、還暦を迎えた会員の想いを綴った記念誌「山の上で燃やした青春―II」が配布され、昔を懐かしむと同時に思いを新たにした一同であった。

（佐々木信雄記）

講演をする五十嵐氏

秋高三三会

去る八月十九日、秋田駅前ホテルメトロポリタン秋田において秋高三三会が開かれた。

ご来賓は矍鑠たる畑澤潤一、杉田宏の両先生。

当日は、全国高校野球大会決勝の前夜。半世紀前、まさにその甲子園のマウンドに登板した伊藤俊成君がスピーチに立ち思い出話を披露。出席者一同感無量。

今回は女性軍の参加も多く（二十四名中五名）例年以上の盛り上がりだった。

来年は卒業五十周年を迎える。同期会も賑やかに行われる予定である。（清水記）

●三八会●

平成18年8月15日
於　アキタパークホテル

《俳句》

たんぽぽ　豊島 恵美（笑子・恩師）

生きてこそこの安らぎや遍路行
春眠や身の門のはづれをり
塀の崩（くえ）よりたんぽぽの一家族
城門はただの借景さくら花
夫の忌や淡々として薔薇を撰る
いわし雲太宰の津軽すっぽりと
濃竜胆仏灯に色動きけり
曼珠沙華出羽の国まで飛火して
薄霧やダムに浮くもの沈むもの
蔦の葉の落ちてあばらの骨の塀

大枯野　武田 武志（恩師）

菜の花や北前船は遠き海
現世見る御眠の深さ鑑真忌
男児立つ母郷の丘の若緑
ほどほども相論の知恵花曇
後継ぎは東京暮らし粽結ふ
篝火や亡者踊の白き指
手花火や輪の中心に一人っ児
風鈴や仰臥漫録読みさしに
大枯野蝦夷の跡を偲びけり
降る雪を瞼で払ふ寒立馬

■ポラリス

秋田わか杉国体で勝利することの意義

秋田県体育協会スポーツ医科学委員長
整形外科医　湊　昭策（昭和36年卒）

今年は秋田わか杉国体が開催される。秋田県は、国体開催が決まって逸速く県体育協会内に、国体選手強化対策本部を立ち上げた。本校同窓会長の辻兵吉氏が県体育協会会長の時である。その後、国体開催の正式決定を受けて、県は、秋田わか杉国体に向けての競技力向上対策本部を設置した。秋田県体協は全面的にこれに係わっている。

この対策本部の設立目的は、秋田わか杉国体に於て、秋田県が総合優勝することである。この中では、選手の医科学的サポートを最重要課題として位置づけてその部会を設置した。県体協の医科学委員会が核となり、取り組んでいる。医師によるメディカルチェック、体力診断、トレーニング、メンタルトレーニング、コンディショニング、栄養指導に至るまで、おのおのの専門家が、日常の練習から実際の試合会場等で、選手個人やチーム、指導者、親等を対象にいろいろな形でサポートしている。しかしながら残念なことに、このようなシステムを十分に活用出来ていない競技団体もあるのが現状である。

平成十八年兵庫国体の天皇杯は、目標を八位に設定したが、結果は十位であった。高得点を見込んでいた競技が予選で敗れたためである。とにかく、勝たねば意味がない。持てる力をフルに出し、最後まであきらめずにがんばってほしい。

試合に勝つ、ということは競技者にとって大きな喜びであると同時に、見ている者や関係者に大きな感動を与える。そして負けたとき、人は多くを学び、再びチャレンジする。そのくり返しがスポーツのおもしろさである。負けから何も学ばなかった者、また、学んでも努力しなかった者は脱落してゆく運命にある。勝者はさらに上を目指すべきであり、県レベルから国レベルへ、そして世界を目指して挑戦してほしい。負けて、学んで、努力して、はじめて真の勝者となれる。どの世界も同じである。参加することに意義がある、という時代はすでに終わった。県民は勝つことを期待している。

目の前で勝利する場面を観た時、人のスポーツに対する考えは変わる。サッカー競技のサポーターでもわかるように、同じ感動を求めてのめり込む。選手にはそれが大きな力となる。指導者にはより高いレベルでの指導が求められている。若者の能力は無限である。今以上に目標を高く設定しなおして選手と共に研鑽を積んでもらいたい。そのためのサポート体制は、すでに整っている。

環境・食品用検査試薬機器の御用命は
佐野薬品株式会社
代表取締役会長
佐野元彦（昭和49年卒）
代表取締役社長
佐野公彦（昭和52年卒）
秋田市卸町3丁目4－2
TEL 018－862－6644

日本興亜損保
日本興亜生命 代理店
㈱IAオフィス
営業所長
岡田仁志（昭和52年卒）
〒010-0001 秋田市中通1－3－5
秋田キャッスルホテルオフィスⅡ 203号
Tel.018-808-7733 Fax.018-836-1113
E-mail:qqm625b99@beach.ocn.ne.jp
携帯番号：090－2992－7729

祈る心をたいせつに
土崎神明社
名誉宮司 伊藤幸枝（昭和8年卒）
宮司 伊藤茂樹（昭和42年卒）
秋田市土崎港中央3丁目9－37
TEL 018－845－1441
FAX 018－645－2417

やさしさに逢う 秋田の宿。
秋田温泉 さとみ
代表取締役社長
手塚鋼（昭和42年卒）
〒010-0822
秋田市添川字境内川原142－1
TEL 018－833－7171
FAX 018－833－3718

部活動戦績

ラグビー部 花園出場！

卓球部優勝

ラグビー部 三年ぶり六度目の花園出場

部長　三浦　義則

十月二十四日に行われた全国高校ラグビー大会県予選決勝で、本校は秋田工業を17―0で破り、三年ぶり六度目の全国大会に出場することになりました。しかし、ここまでの道は決して平坦でなく、これまで幾度も秋田工業や秋田中央といった強豪校の前に屈してきました。そして今年、「自分たちは、なぜ勝てないのか」を真剣に考え、個人的能力を集団戦術で補うことに重点を置き、近藤周平監督のもと、春以来厳しい練習を重ねてきました。その結果、全県総体で優勝し、大きな自信を得ました。東北大会では決勝で盟主仙台育英高校と対戦し、敗れたものの好ゲームを展開し、確かな手応えを得ました。このように、「やれば、できる！」ことが、選手にとって大きな支えとなってきたのです。県予選決勝では、秋工の夏井・河辺両エースの足を悉く封じることに成功し、相手攻撃の隙をついて着実に得点を重ねて勝つことができました。ここまで来れたのは、同窓会はじめ、多くの方々により有形無形の励ましやご支援を賜ったからであり、心より御礼申し上げます。

◆ラグビー
全国大会県予選
2回戦
秋田78―6金足農業
準決勝
秋田28―7男鹿工業
決勝
秋田17―0秋田工業
（3年ぶり6度目の花園出場）

◆陸上競技
全県駅伝競走大会
男子　17位
女子　5位（東北大会へ）
全県新人
男子走高跳2位佐々木孝太
男子混成8種7位藤井　翼
女子混成7種3位石井彩貴
（東北大会へ）

◆バスケットボール
全県新人
男子
1回戦
秋田99―62能代西
2回戦
秋田49―112能代工
女子
1回戦
秋田60―65横手

◆バレーボール
中央支部新人
男子　第4位

◆卓球
中央支部新人
全県新人
男子団体　優勝
決勝リーグ
秋田3―1秋田工業
秋田3―1由利工業
秋田3―1秋田商業
男子ダブルス
優勝　松渕健一・赤坂仁志
3位　渡部　潤・菊地達八
男子シングルス
優勝　松渕健一
3位　赤坂仁志
ベスト8　渡部　潤
ベスト16　菊地達八
伊藤伸治

◆バドミントン
全県新人
男子団体
1回戦
秋田0―3秋田中央
女子団体
1回戦
秋田0―3羽後

◆ソフトテニス
全県新人
男子団体
2回戦 秋田0―2能代商

◆テニス
全県新人
男子団体
1回戦
秋田5―0横手
2回戦
秋田0―5経法附属

◆サッカー
中央支部新人
予選リーグ　3位
全県出場決定トーナメント
秋田2―0秋田工専
秋田1―2新屋

◆山岳
中央支部新人
男子
優勝　秋田A　160点
（鈴木将成・白川駿・三浦隆士・渡邊和博）
第2位
秋田B　149・3点
（西村脩平・佐藤琢眞・石川岳士・大坂隼平）
女子
第2位
秋田A　133点
（渡部実唯子）
読図　1位　鈴木将成
知識　1位　渡邊和博
天気図　1位　石川岳史
全県新人
男子団体
第2位
秋田　225・7点
（安田龍平・菅伸生・佐賀貴正・渡邊和博）
個人総合　優勝
渡邊和博　87・8点

読図　2位　鈴木将成
知識　1位　三浦隆士
　　3位　渡邊和博
天気図　1位　渡邊和博
　　2位　鈴木将成
体力　1位　渡邊和博
女子個人
　総合　3位
　　渡部美唯子55・4点

◆弓道
全県新人
個人戦男子
　第6位　工藤智駿
個人戦女子
　第3位　立花才花
　（東北大会へ選抜）
　第4位　那須あかね

◆剣道
全県新人
団体
　男子予選リーグ
　　1位（2勝0敗）
　女子予選リーグ
　　2位（1勝1敗）
　男子決勝トーナメント
　一回戦
　　×秋田2―2秋田中央○
　　（本数による）
個人
　男子ベスト16伊藤　陸

◆柔道
中央支部新人
男子団体
　一回戦
　　○秋田(二人残し)金足農×
　準々決勝
　　×秋田(二人残し)秋田中央○
男子個人
　66kg級　1位　斎藤雄仁
　73kg級　3位　二階堂拡
全県新人
男子団体
　二回戦
　　○秋田(一人残し)横手×
　三回戦
　　○秋田(一人残し)湯商工×
　準々決勝
　　×秋田(三人残し)合川○
個人
　66kg級　1位　斎藤雄仁

◆漕艇
全県新人
男子舵手付クォドルプル
　準優勝（阿部・太田・鎌田・石井・細井）
男子シングルスカル
　準優勝（渡辺孝）

◆水泳
全県新人
男子1500m自由形
　1位　猿田陽平
同400m自由形
　3位　猿田陽平
　（東北大会へ）
同50m自由形
　2位　上島大和
同100m自由形
　4位　上島大和
男子100m背泳ぎ
　6位　川村直輝
同200m背泳ぎ
　6位　川村直輝
女子400m個人メドレー
　4位　石黒なつ美
　（東北大会へ）
同200m個人メドレー
　5位　石黒なつ美

◆硬式野球
『秋季中央地区高等学校野球大会』
　優勝　※四年ぶりの優勝
　2回戦　秋田11―3西目
　（8回コールド）
　準決勝　秋田5―2金足農
　準決勝　秋田5―3秋田中央
　決　勝　秋田7―4男鹿工業
『秋季全県高等学校野球大会』
　2回戦　秋田7―0鷹巣農林
　（8回コールド）
　準々決勝　秋田3―4能代

◆軟式野球
秋季県大会
　1回戦　秋田6―2能代工
　準決勝　秋田1―3秋田商

◆フェンシング
中央支部新人
女子個人　エペ
　1位　面山　結
　フルーレ
　2位　面山　結

『みんなの登校日』

地域の教育力を活用し、学校、家庭、地域社会の連携と協力の下に本県教育の充実と発展を図るねらいで、県教育委員会が取り組んでいるものに「みんなの登校日」がある。本校でも、昨年に引き続き、六月と十月の二度実施された。

六月二十三日、二十七日、二十九日に実施された一回目では、各学年PTAが同時開催され、約三百名近い保護者が参加された。授業参観者は昨年に比べ少なく、感想の中には「参加できる授業を」の声もあった。また、幅広い分野からの各種講演会を行ったが、特に読売新聞編集委員橋本五郎氏（本紙79号に掲載）、及び秋田県中国友好協会理事長杉渕廣氏の講演には一般参加者も目立ち、熱心に耳を傾ける姿が見られた。

十月十八日～二十日実施された二回目には八十七名の参加者があり、一～三校時の授業公開の参加者数は昨年より多かった。初日の芸術鑑賞教室（本号四面に掲載）、明和会中通総合病院小児外科医診療部長松田淳氏の講演、理数科セミナー課題研究発表会と、前期とは異なる内容で構成され、学校における活動の多様性を提示できたのではないだろうか。また、アンケートでは、着装の自由化に関連して、本校生徒の「品性」について指摘されていた。この問題は、生徒会を中心に現在活発な議論を重ねている。

会務事項報告

18年
7・22　五城目支部総会
8・5　男鹿支部総会
8・20　通常総会
9・4　宇都宮支部総会
10・4　企画委員会
10・13　財政委員会
10・14　札幌支部総会
10・17　名簿委員会
10・25　当番年次会議
10・29　追分三叉路会
11・1　広報委員会
11・4　茨城支部総会
11・12　近畿支部総会
11・14　役員会
11・18　汀友会総会
11・30　本荘支部総会
12・4　理事会
19年
1・2　平成9年卒同期会
1・12　羽城会総会
1・15　「同窓会だより」八十号発行

事務局だより

●全国高校ラグビー大会出場の募金活動には、同窓生の方々から多大のご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。

●今年度分の会費未納の方には、再度「払込取扱票」を同封しました。どうかご協力をお願いします。「だより」発行の関係で行き違いがありましたら、お許し下さい。

探訪・ミニ同期会　玉樹会

昭和36年卒（サブロク会）

の定期的な会合は、正月とお盆の時期の年二回だそうだが、それとは別に、秋田市内在住者を中心にして、昼食会をもっているという。

杜甫の詩の一節を借用して命名された「玉樹会」という名のこの会は、36の3と6を足した9日が毎月の例会日だそうで、場所も十数年前の発足当初から、山王官庁街の一画にあるホテルに固定されているという。

毎回二十人近くの出席者があり、当初は食事と懇談のみであったらしいが、それだけではつまらないということで、最近はメンバーを中心に「講師」を選定してミニ講演会も実施していると聞く。これまでに「佐竹藩の騎馬軍団」（半田和彦氏）、「日本語の語彙の特色」（紫山芳隆氏）、「身近な野草の名前の由来」（大石礼之輔氏）などについて勉強してきたという。野草がテーマになった例会ではスライドを駆使してということであったそうだから、半端な会ではなさそうである。

多人数の会も楽しいが、小規模な会にもまた別のおもしろさがありそうである。玉樹会のような例があったら、ぜひ本紙にもご一報願い、紹介していきたいと考えている。

哀悼（敬称略）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

17年
10月　梁田　堅蔵（昭12）
11月　武内　節三（昭20⑤）
相場　誠（昭34）
横山　英彦（昭19）
大山与一郎（昭14）
奈良　重夫（昭39）
坂本　茂雄（昭27）
北島　修哉（昭33）
鈴木光太郎（昭9）
12月
18年
1月　佐藤　孝之（昭20⑤）
池端　孝（昭30）
2月　進藤　昭久（昭27定）
佐藤　一太（昭10）
小松　明雄（昭26）
3月　大山　正（昭6）
高井　敏夫（昭15）
大島　周二（昭4）
渡辺　清澄（昭30）
佐藤康五郎（昭10）
4月　中川　秀夫（昭16）
佐藤　全男（昭13）
太田　啓一（昭35）
佐藤　三郎（昭20④）
5月　前島　則子（昭33）
石井　精一（昭18）
来生　宗一（昭30）
石田　巌（昭22）
塚田　和弘（昭25）
益子　降平（昭12）
南都　源義（昭20⑤）
6月　石黒兵四郎（昭23）
中田　昭一（昭36）
日高冬比古（昭16）
佐々木　徹（昭31定）
佐藤　泰造（昭32）
鎌田　均（昭42）
長谷山律子（昭36）
7月　平澤　尚忠（昭6）
赤川　達彦（昭35）
高瀬　政忠（昭15）
鎌田　康世（昭32）
松崎　倍（昭40）
八木下廣全（昭33）
山崎棟司雄（昭21定）
伊藤　恒也（昭20⑤）
打矢　恒雄（昭26）
中山　潔（昭27）
内田　嶢（昭23）
8月　野澤　謙（昭20④）
工藤　裕明（昭43）
加藤　盛夫（昭36雄）
佐々木憲隆（昭30）
佐藤　清（昭26）
佐々木雅樹（昭40）
戸島　進（昭27）
伊藤　繁雄（昭13）
山田　博通（昭23）
佐藤　武（昭20⑤）
田中　武（昭39）
斎藤　弘（昭15）
高橋　正敏（旧職員）
9月　鎌田　卓（昭19）
北川　幸（昭29）
三浦　吉郎（昭48）
渡辺　富雄（昭15）
有坂　岩雄（昭20⑤）
平野秀三郎（昭19）
大泉　節次（昭17）
奈良　牧男（昭38）
丹内　信夫（昭18）
箕輪　潔（昭30）
10月　児玉　政久（昭16）
大山　重邦（昭20⑤）
虻川　誠二（昭34定）
茂木　昇（昭15）
佐藤　正明（昭29）
畑澤　峰雄（昭25）
荻田　熙（昭21定）
佐藤　岩雄（昭11）
佐藤　尚武（昭36）
土肥　弘治（昭16）
湊　克（昭16）
11月　高橋　利雄（昭21）
木本　正春（昭29）
神田　茂（昭9）
藤田　春雄（昭15）
高橋亮次郎（昭25）
浅利　英作（昭8）
高橋榮之助（昭9）